

# 令和7年度第1回御殿場市総合教育会議

---

## 日時

令和7年8月28日（木）午後1時30分から午後3時00分まで

## 場所

御殿場市役所東館201～203会議室

## 出席者

御殿場市長	勝又正美	教育長	勝亦重夫
教育委員	大西孝明	教育委員	勝又英和
教育委員	萱沼泉	教育委員	杉山ゆかり
教育委員	長田光男		

## 陪席者

教育部長	教育総務課長
教育施設課長	学校教育課長
社会教育課長	図書館調整監
学校給食課長	
西学校給食センター所長兼高根学校給食センター所長	
教育施設課技監	教育総務課副参事
学校教育課主席指導主事	学校教育課課長補佐
学校教育課指導主事	社会教育課課長補佐
社会教育課課長補佐	学校給食課副参事

## 事務局

教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課主事	教育総務課主事

## 次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項  
新しい御殿場市教育大綱について
- 5 閉会

## 1 開会

---

教育総務課長

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から令和7年度第1回総合教育会議を開催します。全体の進行は教育総務課の山崎が務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

会議は次第に沿って進めてまいります。それでは、次第の2「市長挨拶」、市長お願ひします。

## 2 市長挨拶

---

市長

今年度、第1回目の総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。今年の御殿場も大変暑かったですが、なんとなく朝晩が秋めいたような季節になってまいりました。

夏休みに特に大きな事故などもなく、学校もスムーズに2学期が始まったと聞いております。全国で子どもの事故であったり、事件に巻き込まれたりするというニュースが報道されておりますが、我々行政として、まずは子どもたちの命を守っていくということが、最大の責務であると思っております。

小学生・中学生が色々な場所で活躍をしておりまして、スポーツや文化面で全国レベルの成績を収めた多くの方が表敬ということで来ていただいております。また、ニュースや地元の新聞や静岡新聞などのメディアに出たことによって、大変励みを貰ったという声も聞いております。先日も、市町対抗駅伝の激励に行ってまいりました。小学生・中学生の80名が参加をし、多くの方が参加をしていただいたということに大変嬉しく思っております。選手には制限があり、選ばれた選手だけが出場できる、あるいは補欠として選手登録されるということになりますが、それを抜きにしても、1つの目標へ意欲を持って練習に参加していただけるということは、素晴らしいことであると思っております。他の自治体ではあまりない例であるため、御殿場市の良いところの1つと思っております。

現在、教育を取り囲む環境が変化をしており、不登校、部活動移行、GIGAスクール構想、コミュニティスクールなど、色々な課題があります。その中で教職員の働き方改革に対して、どのような取り組みをしていけば良いのかということも大きな課題としてあります。このような課題を皆さんと一緒に考えていくべきだと思っております。

厳しい人口減少社会になりますと、人づくりが大切ということを感じております。これからの中長期では、いかに少ない人数で運営、維持をしていくのかが課題です。色々な団体が減っていくことは当然だと思います。そのためにも1人1人の個々の能力を高めていくことが非常に期待されると思いますので、人づくりにお金もかけていかなければならぬと思っております。

本日は御殿場市の教育大綱についてという大きなテーマがあります。それに対して、限られた時間ではありますが、皆さんの意見を聞きながら、有意義な時間になればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

教育総務課長

---

ありがとうございました。続きまして、次第の3「教育長挨拶」、教育長お願いします。

### 3 教育長挨拶

---

教育長

皆さんこんにちは。第1回総合教育会議にご参集いただきまして誠にありがとうございます。総合教育会議は、教育委員会の制度の中で重要な位置付けがされております。市長、教育委員、教育委員会が教育政策についてじっくりと協議をし、教育の方向性を定めていく大事なものです。御殿場市では、毎年2回開催しております。教育行政について、着実に市長部局と連携を取りながら、進めていけることを大変ありがたく思っております。

先程話題に出ましたが、今週の火曜日から学校がスタートしました。登校の様子を見ますと、非常に辛そうな顔をしていたのですが、学校に行きますと元気でやっているということを聞き安心をしました。2学期は子どもたちが大きく成長する時ですので、良い教育活動が進められることを願っております。

静岡県では県の総合計画が開始され、今年の3月に県の教育委員会で新しい静岡県教育大綱が示されました。教育の理念としては、「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」ということで、人づくりを大事にしております。

全ての人が持続可能な社会の担い手になること、静岡県は幸福度日本一と謳っていますが、全て人のウェルビーイングが実現できることが大事であると思っております。御殿場市も第五次総合計画の作成が進んでおりまして、ほぼ完成をしております。それに合わせて、新しい教育大綱が示されました。今後の5年間にあたって、教育委員会が進めていく政策の根本となります。まさに理念となるものですので、本日の会議は詳細を論じるということではなく、幅広い視点から教育委員会の進むべき道について、議論ができればと思っています。限られた時間ですが、充実した時間にしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

## 4 協議事項

新しい御殿場市教育大綱について

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速ですが、4「協議事項」に移りたいと思います。

これからのお進みにつきましては、勝又市長よりよろしくお願ひいたします。

市長

ここからは私の方で進行させて頂きます。

それでは、協議件目の「新しい御殿場市教育大綱について」を事務局より説明願います。

教育総務課長

お手元の資料をご覧ください。新しい教育大綱は、令和8年度から令和12年度までの5年間を対象としております。市の第五次総合計画を最上位計画とし、総合計画と歩調を合わせ、御殿場市の教育の基本的な方向性を定めるものです。今後の教育行政や、下位計画である教育振興基本計画の土台となります。

内容面では、現行の大綱の基本構成・理念は継承しつつ、「ウェルビーイング」や「幸福感」など、今の時代に合ったキーワードも新たに盛り込んでいます。6つの政策領域については、市の第五次総合計画の方針に基づいております。市全体の計画と整合性をとることで、御殿場の教育の普遍性・安定性を重視しつつ、市民にとって分かりやすい方針となるようにしています。

法的根拠及び今回の総合教育会議についてですが、教育大綱の策定及び総合教育会議については「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいております。大綱は市長が定めるもので、その策定や変更の際は総合教育会議で市長と教育委員会で協議することが定められております。

今後のスケジュールについてですが、本日の会議で出た意見や修正点を、必要に応じて反映し、9月の定例教育委員会で議案として審議し決定する予定です。この教育大綱を上位計画として、このあと、第3期御殿場市教育振興基本計画の策定作業も本格化します。こちらは、府内検討委員会や懇話会を行いながら政策を実行するための計画を具体化するものです。

最後になりますが、本大綱は、今後5年間の教育行政の大きな指針であり、計画・施

策の土台となるものです。皆さまの積極的なご意見とご協力をお願ひいたします。以上、説明といたします。

市長

---

これからの中の教育の基本的な理念となる教育大綱の案ができたということで、ただいま説明がございました。

前半は、全体の大きな位置付けや教育委員の思いや率直なご感想をお聞かせいただきたいと思います。後半は、6つの政策の中で、特に気になる点やより力を入れるべきと感じる部分について意見交換できればと考えています。

それでは、長田光男委員、よろしくお願ひいたします。

長田委員

---

今回の新たな大綱案を見て印象深いのが、多様性という考え方を重視していることです。1番心に響いたのは、表紙下段の「多くのヒトやモノやコトと出会い、それぞれと様々な関わりを持つことによって、自分自身が成長し他の人の関係が広がり深まっています。このことが人々のウェルビーイングの実現につながっていきます。」という箇所です。

最近よく使われるウェルビーイングは、幸福感や幸福度と訳され、様々な意味合いがあると思います。心理的な幸福感を高めたり、健康を増進したりといったことだけに留まらず、郷土に愛着を抱き、誇りを持った生活を送れるようにと、市民1人1人に出会い大切にしていくことで、やりがいや生きがい、充実化、自己実現をしていくという個人の尊厳を尊重することは、ますます多様化が進むこれからの時代に不可欠なことであり、大変素晴らしい考えであると思います。

もう1つは学校教育についてです。現行の大綱の基本理念条文にあったSDGsという単語がなくなり、多様な価値観を理解し認めることと置き換えられました。多様な価値観という観点で教育を読み解くと、元来教育は論理的思考力や批判的思考力、創造性などの能力を高めていき、ペーパーテストなどで測定できるものが重視されてきました。

最近よく使われる言葉に非認知能力があります。ペーパーテストなどでは必ずしも測定しきれない、実際に仕事をする上で重要と考えられる能力などから生まれた言葉です。テストの点が良かった割には仕事ができない、難関大学を卒業しているのに使えないといった例は自分も目にしてきました。

非認知能力でない認知能力については、テストの点数が悪いより点数が高い方が良いことは言うまでもありません。それに加えて非認知能力と言われる、思いやりや共感性、リーダーシップ、自己統制、自己効力感などの様々な非認知能力を高め、育てることが求められる時代となったと強く感じています。今の世の中には単純にどちらが正

しいのか判断を出すことのできないケースや、どう振る舞うべきかの正解のないことも多いです。そのような矛盾やジレンマを乗り越えていくために、家庭教育が大切な論を待ちませんが、多様化と国際化がますます進んでいくからの学校環境で具体的に議論したり、先生の話を聞いたり、クラスメイトと一緒に学校生活を送っていく中で気づきがあり、今まででは当たり前だと思っていたことが当たり前でないことに気づくなど、他を理解することも学校教育には求められてきていると思います。からの時代の大綱は3つの基本理念の1つにあります、多様性を理解し生きる力を育むための幼児教育、義務教育の充実を進めることが豊かな人生の指針となり、重要であると考えております。以上です。

市長

---

ありがとうございました。杉山委員、よろしくお願ひいたします。

杉山委員

---

長田委員と意見が重なる部分もありますが、大綱の基本理念を拝見しまして、多様な価値観を理解し認める、多様性を理解し生きる力を育むなど、多様性という言葉が明言されているところに新しさを感じました。

今の子どもたちを見ていますと、色々な考え方だとか、個性を理解して尊重し合うことは当たり前の感覚になっているように感じています。異なる考え方を学び合うことでお互いをもっと深く理解する力が育っているのだと思います。多様性を受け入れ、1人1人が安心して自分らしくいられる社会を作っていくことが、これからますます大切なのだと感じています。

また、新しくコミュニティスクールという言葉が入っていました。高根地区でもコミュニティスクールが導入されていますが、以前にも増して地域と学校の関わりが増えているように感じます。そうした関わりの中で、子どもたちだけではなく大人も学ぶことがあります、子どもたちに関わることが自分のやりがいになっているという意見も耳にします。市民1人1人が主体的に子どもたちに関わることで、まち全体が元気になっていくことが、基本理念にもある通り共に成長するまちづくりなのかなと改めて感じました。幅広い世代の共感を得られる内容になっていると感じます。以上です。

市長

---

ありがとうございました。勝又委員、よろしくお願ひいたします。

勝又委員

---

歴史と文化の継承という観点から話をさせていただきたいと思います。1番苦手なカテゴリーを選んでしまい、今日この場に望むのに必死で勉強してまいりまして、学生時代にこれだけ勉強したら相当いい順位だったのではないかと思います。

2020年に御厨駅という駅が磐田市で完成し、その時にやられたと自分なりに思いました。御厨という言葉は、全て御殿場であると思っておりました。富士吉田に富士山駅、磐田市に御厨駅があり、御殿場はみんな持っているばかりだなと思いました。

その御殿場の御殿の話ですが、将軍家が移動する時には御殿や茶屋などを作る決まりになっているそうです。徳川家康が江戸から箱根を越えるのではなくて、足柄峠を越えて移動をするということで、候補地を挙げて調べた結果、御殿場の地に決まったため御殿の造営が始まったが、実際に作り始めて1年で徳川家康が亡くなってしまった。その後の文献によると、亡くなって11日目に、沼津代官が工事は継続し完成させるようにという文章を出したとのことでした。実際には徳川家康のために始めたことですが、実際は目的のために使用はされなかったそうです。

御厨の話に戻りますが、調べたところ、全国で12箇所御厨という地名が残っています。しかし、将軍家が移動のために御殿や茶屋を作るという御厨の地名が、全国で残っているのは御殿場の地だけであるそうです。

御殿場という名前に関して、これからも子どもたちにもよく話をして、由来など伝えていけたらなと思います。以上です。

市長

---

ありがとうございました。大西委員、よろしくお願ひいたします。

大西委員

---

基本理念の「豊かな人生の礎となる幼児教育、義務教育の充実を進めます。」ということについて、幼稚園の先生方はコミュニケーションの能力向上に、本当に努力されておりまして、私もよく誕生日会などに演奏のために招待されて行きますが、やはり言葉だけがコミュニケーションのツールではなくて、歌を歌い、大きなハグをし、手を繋いでという触れ合いが、1番コミュニケーションの能力を向上させることであると痛感しております。

また、「学びが『誰でも、いつでも、どこでも』実現できるようにする」ということについて、各地区に平等に学ぶ施設の設置を実現することが望ましいのではないかと思いました。

最後に「子どもの健全な成長は、家庭・地域・学校が連携・協力することによって実

現できます。」ということについて、やはり地域が主体的に取り組むことが必要だと思います。特に、部活動の地域移行の受け皿が準備がされていると思います。私も音楽を通じて、部活動の地域移行の実現に向けて協力していきたいなと思っております。以上です。

市長

---

ありがとうございました。萱沼委員、よろしくお願ひいたします。

萱沼委員

---

大綱を拝見した上での意見を述べさせていただきます。資料の表紙の後段で、「幼児期、学齢期、成人期といった様々な世代をつなぎ合わせ1つの大きな面にして、市民1人1人が郷土に愛着を抱き生きがいと誇りを持った生活を送る」という記載がございました。同時に、後の記載事項の基本理念のところでも地域づくりの礎は人であるという記載があり、このことに関しては全く異論がないところです。

この大綱の中で考えたいと思う点は、学齢期を終えて御殿場で就職する方もいると同時に、大学や専門学校で高度な知識を身につけるため地域外に出ていく若者が多数いるということです。高等学校との関わり合いの中で色々と話を聞いておりますが、大学を卒業後、御殿場に帰って働きたいという希望を持っている生徒がかなりいるとのことです。

大綱に書いてある通り、御殿場市の地域社会を存続させるため、教育を通じてベースになる人材の育成をしていく、という繰り返しがサステナブルな社会と言えると思います。

しかし、大学卒業後に御殿場に帰ってきて就職する若者が、公務員や教職員、金融機関等の限られた職種でしか働く場所を見出していないということが非常に気になっています。もっと一般企業等々に多くの人材を送り出し、御殿場を勢いづかせる・活性化させるということに力を注いでいただくことが非常に大事であると思います。

逆に言うと、限られた職種でしか就職先を見出せない状態が継続されるということは、将来の御殿場の地域社会に影を落としかねないのではないかと考えます。就労環境を整備するためには、人口減少社会の中で人手不足という課題を考えると厳しい部分もあるかと思いますが、このような課題を大綱の中に落とし込んでいただければと思います。

これらの点について、2つ意見を申し上げたいと思います。地場産業の育成支援といった生え抜きの企業をもっと育てていくことも必要であり、新規事業や新しい分野に挑戦する企業を育てるということも大事だろうと思います。市長の政策の中にそういった点を拝見しておりますので、この点は将来に期待を持てるかなと思います。

もう1つは、校長先生方と話をする中でキャリア教育というのが非常にテーマにな

ると思います。これについては学校という枠組の中だけで進めていくのは、なかなか難しいと思います。ぜひ子どもたちの職業教育ということで、キャリア教育の拡充を、教育委員会あるいは企業ベースで推進する体制も、具体的に落とし込んでいただけたら、よろしいのではないかなと思いました。以上です。

市長

---

教育委員の皆さんから、全体的な感想や意見をいただきました。今の意見を踏まえて、教育長から意見に対する感想がありましたら、一言お願ひします。

教育長

少子高齢化でどんどん人が減ってきてている時代で、地域に出れば、地域コミュニティの希薄化といった話があります。このような社会で、どのように目的を達していくかということですが、私は教育界にずっといましたので、色々な課題がありますが、子どもを中心に考えてみると可能性が出るのかなと思っています。

子どもたちに教育をすることはもちろんですが、地域の方々の関わり方によって子どもたちの成長が違い、関わった人たちの生きがいややりがいも生まれます。子どもたちを中心に据えて色々な政策をやっていくことを考えています。

今、高校生が非常にまちづくりについて協力をしてくれていて、子どもたちや参加した方々も満足感を持つという現象があります。その繋がりを核に、子どもたちについて考えていきたいなという思いがあります。以上です。

市長

---

ありがとうございました。色々な角度から思いを言っていただきました。意見交換として、私も少しだけ触れさせていただきます。

話題として多様性という言葉がキーワードになりました。特に若い人たちと話をする中で、共生社会を理解できる人間になって欲しいと思います。今、高等学校の入学式や卒業式に出席しますと、校長先生の話がだんだん変わってきています。色々なものに挑戦して社会人として1人前だから頑張れという内容から、共生社会を理解できる人間になってくださいという言葉が非常に多く寄せられます。

また、当たり前の社会という言葉がありましたが、当たり前の反対は感謝だと思います。感謝ができないれば、共生社会を理解できない。共生社会を理解できなければ、社会貢献ができない。ということを特に若い人たちに話をする時はいつも言っております。

欲しいものは何でも手に入る時代になっていますので、感謝が社会の中で薄らいでいることは確かです。今の子どもたちの時代は、欲しいものが何でも簡単に手に入ってしまう。知りたい情報がネットで検索すると簡単に手に入ってしまう。昔は1つの情報

を得るのに、本を買ったり、図書館に行ったり、色々な辞典を見たりしないといけなかった。情報やモノが簡単に手に入ることが当たり前の社会になってしまっていると思います。

現在、共生社会の実現というのが各自治体に課せられている1番大きな課題であります。御殿場らしい人づくりとして、まちづくりの中に情があることをモットーしております。御殿場市魅力投票の中で御殿場市民の人間性というのがランクインしています。もちろん魅力として、富士山であったり、アウトレットであったり、自然であったり、交通の便が良いであったり、色々ランクインしております。先程、温かみのある、優しいという言葉が出ましたが、私のモットーと一致しているところです。

また、会話という話題が挙がりましたけれど、夏祭りの子どもたちの表情が本当に豊かで、友だち同士会話しながら歩いている人が多く、黙って歩いている人はあまりいなかつたです。まさにこのような地域のイベントを通して、地域が子どもたちを作ることも大事かなと感じました。

長年、御殿場で活動をしていましたJFAアカデミーが12年間を経て、先日帰りました。また、能登半島地震があり、能登高校のソフトテニスが全国選抜大会に選ばれたけれども、諦めかけていたところを御殿場市が助け、その高校生たちが最後に御殿場を旅立っていく時に言った言葉が、「私たちはこの恩を忘れない、この情を忘れません。それを社会貢献で返したい。」ということを言っておりました。私はやって良かったと思っております。

楽器を演奏したり、歌を歌ったり、そのような交流を、地域が支えていかなければいけないということを大西委員が言われましたが、まさにその通りだと思います。最近も国際スクールナース学会があった際に、音楽というのは心を和ませるものだなと思いました。参加者が、良い雰囲気であると感激しておりました。先程、歴史と文化という話もありましたが、湯立神楽や空手の演舞に涙を流して喜んだというのは本当の話です。約20か国が参加しましたが、本当に日本は素晴らしいということをおっしゃっていました。この歴史や文化を伝えていくことは大事かなと思います。

教育的に御殿場という名前の由来などを、どのように教えているか分かりませんが、静岡県の中で1番かっこいい市の名前のダントツトップは御殿場市です。2位が富士市です。御殿場という響きが重々しい感じがあり、かっこいいのではないかと思います。先程勝又委員から御厨について話がありました。私は記者会見などで御厨地方という言葉を当たり前に使います。だからもっと御厨という言葉も慣れ親しんだ方が良いのかなと思います。地元の歴史や文化を子どもたちが知らないと、魅力を知らないということになります。その魅力を私たちは発信して欲しいと思います。御殿場の良さを知るということが、大前提となるのではないかなと思いますので、このような意見は大事かなと思っております。

そして、幼児期、学齢期、青年期へ繋げていくという話がありました。御殿場に人が

なかなか戻ってこないという話もありました。子どもの頃からや地元に愛着を持つということが大事だと思います。先程教育長からもありましたが、特に高校生を中心とした若者が、御殿場100人ミライ会議などのプロジェクトグループに入って御殿場の未来を考えていただいております。御殿場市の中心市街地をどうしたらいいか、御殿場の特色や力をどうやって生かしていくのかということを、一生懸命考えていただいております。高校生の活動について、小学生・中学生は意外と興味があります。大人ももちろん模範になりますが、なんとなく身近に感じるところもあり高校生の活動は見本になります。現在、高校生主催のイベントを少し下がって後押しをしております。しゅがミトの駅前イベントや学園祭など、色々盛り上がっています。GOTEMBAMIRAI PROJECT という企画の中で、東京ガールズコレクションも高校生の考えた企画であります。なえのさんやゆうちゃんさんなどの人気のある方が来ましたが、通常の東京ガールズコレクションとは衣装が少し異なります。SDGsを考えたり、御殿場的な衣装を考えたりという、漠然と見ているとあまり気がつかないかもしれない部分ですが、そこが70周年記念の東京ガールズコレクションということでやりました。大変盛り上がりましたので、これからも若い人たちの意見を聞いていきたいなと思っております。

人口減少対策のターゲットは18歳と22歳です。この年代が一気に減っています。なぜかというと、首都圏が近くにあり、進学を機に東京へ行ってしまう。又は、就職を機に東京へ行ってしまう。この年代の減少をいかに抑えるかが人口減少対策です。少しづつ効果が出てきまして、私が就任する前は減少が1000人を超えていました。減少人数が1500人まで行き、静岡県で下から1位か2位になったこともあります。現在は500人から600人の減少になってきました。これは、何が効果あったかということを明言することは難しいですが、減少傾向になってきたことは事実であります。人口減少対策は地道にやっていくしかありません。特に、心の問題と故郷への愛着の問題が大きな要素になりますので、ぜひ御殿場の魅力を知っていただいて、愛着を持っていて欲しいなと思います。

前半は全体的な感想や意見を言っていただきましたので、後半は6つの政策の中からテーマを絞って、ご意見を伺えればと思います。萱沼委員、よろしくお願ひいたします。

萱沼委員

---

6つのテーマの政策課題の中で1番と4番について話をさせていただきます。

1番目の「人を育む環境の充実」というところで、「家庭、地域、学校などが一体となって、市民総がかりで子どもの教育と青少年の健全育成を行う。」ということが掲げられております。今まで学校という施設の中で、長年にわたって行われてきたものが地域を巻き込んで、部活動を展開していくという話になっています。その理由について

は、働き方改革と、対象である学年齢の少子化があると思います。

御殿場市も協議会を設けて検討されていると聞いております。他の自治体も非常に頭を悩ませているというのはSNSの情報などで非常に強く感じているため、御殿場市も実現に向けて非常に悩ましいところがあるのではないかなどと思います。ロードマップ的なものがまとまっていかないと、やはり実現に向けていけないのでないかなと感じます。

冒頭で申し上げた通り、「市民総がかりで子どもの教育と青少年の健全育成を行う。」ということが明記されています。個人的にはBtoCという言い方をしますが、Bは部活動、Cは地域で、部活動が学校の枠組から地域に移行されるということで、BtoCであると考えています。私も地域の1人ですが、部活動の地域移行の実態や考え方を知らないと、なかなか協力をしたいと思っても、進められないのではないかなどと思います。

また、御殿場市で部活動に関するアンケートが実施されたと思うが、部活動の先の世界である、アスリートの世界に行きたい子どもたちとの差別化を意識して欲しいと思います。その差別化などについて、生徒の意見を尊重していただきたいなと思います。

部活動は教育課程ではないが、学校教育と非常に密接な関連を持っているため、掛川市や佐賀県の佐賀市、長野県飯田市の特徴的な取り組みをしている自治体があることは、教育委員会の皆さんも承知されていると思いますが、御殿場市の考え方や、市長の意見を頂戴できたらありがたいなと思います。以上です。

市長

---

ありがとうございました。長田委員、よろしくお願ひいたします。

長田委員

---

本年度から原里中学校区にコミュニティスクールが導入されました。朝日小学校の学校運営協議会に携わる機会をいただきしております、第1回目の協議会で挨拶をさせてもらったときに言ったことは、「朝日小学校がなくならず永遠に存続していくことが求められています。」と言わせていただきました。表現として的確なのか分かりませんが少子高齢化が進む状況下で、地域と共にある学校は必要不可欠であると思っています。

9月に行う予定の第2回協議会の協議事項に前期学校評価があります。前年度も評価委員の委員として年2回の評価に関わらせていただきました。今年度からはコミュニティスクールとして学校運営協議会が評価をします。学校運営協議会という、学校、保護者、地域住民が共に知恵を出し合う組織が設置され、学校運営に意見を反映することで一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域と共にある学校作りをする仕組みがコミュニティスクールです。学校運営協議会が設置された学校のコミュ

ニティスクールは手段であり目的ではないと思います。協議会が設置されて終了では本末転倒であると思います。学校運営方針を協議会として承認したのだから、その責任を感じ、7月末に前期の学校評価について、全先生による全体会議に、校長先生にお願いをしてその場に同席させてもらいました。

朝日小学校の学校教育目標は、「あさひの花をさかせよう」です。重点目標は「やってみよう」で、「笑顔で生活、元気な子、自他を大切にする子、学びを楽しむ子」の3つの柱があります。学校経営目標は「心のふるさと朝日づくり」です。それぞれの目標に対し、達成状況、取り組み状況、検証、改善に向けた具体策が先生から発表され、その後全員で検討がなされました。

私が気になったのは挨拶についてです。子どもが学校内、家庭内では意識して挨拶を行っていることはアンケートで分かりました。しかし地域では消極的ということでした。前年度も同様の意見がありました。私ごとですが、毎日ウォーキングをしています。大人は挨拶をする人が非常に少ないです。直近の1ヶ月は、朝早く歩いているのですが、いつもと違う時間ということで、最初はほとんどの人と挨拶を交わすことはありませんでした。最近はイヤフォンをしている人も多く、聞こえてないということも多々あると思います。子どもの立場になって考えると、挨拶しても挨拶が返ってこないのであれば、子どもたちが積極的に挨拶をすることを期待することはできないと思います。という思いを全体会議の最後に話をさせていただき、そんな大人の事情や状況を説明した上で、心折れずに積極的に挨拶を続けてもらう指導をお願いしました。その後、この話をある先生に話したところ、「挨拶は永遠の課題です。」とおっしゃっていました。

御殿場市の未来を担う子どもたちを生き生きと輝かせること、豊かな感性、確かな知性、健やかな心身を育む魅力ある御殿場市とするために、子どもたちの見本となるような挨拶を、大人がすることで子どもを社会全体で育成し、子どもたちを巻き込んで、誰もが挨拶しあう取り組みを御殿場市全体でていきませんか。朝のウォーキングですが、今では顔を合わせるだけで、挨拶を笑顔で返してもらえます。笑顔と挨拶は人と人を良好に繋げるための非常に重要な手段であることは不变です。以上です。

市長

---

ありがとうございます。部活動の地域移行という話が最初にありました。現在の状況を教えてください。

## 学校教育課指導主事

現状ですが、令和10年度までに休日の部活動を完全移行するということを、まずは目標にしまして、それに対してのモデル事業を今年度から剣道の種目で行っております。具体的に申し上げますと、現在6校あるうち、御殿場中学校、富士岡中学校、西中学校の3校に剣道部があります。この剣道部の生徒たちを1つの活動母体として運営していくということをモデル事業としております。実際には、中体連が終わった8月から新チームに移行するタイミングで、合同練習会などを行っていく予定です。指導者の方も、市の会計年度任用職員として採用しています。

しかし、報酬や連絡体制、会場などの課題が今の段階でかなり浮き彫りになっていますので、課題を今年度洗い出し、並行して、剣道以外にモデル事業を進められるものがないか探りながら、令和10年度の休日の部活動完全移行に向けて進めているところです。

市長

実現させるための課題があれば、教えてください。

## 学校教育課指導主事

課題は、大きく分けまして3つあります。1つ目は、人の問題です。これまで学校単位で部活動を持っていたので、教員が指導を担っていましたが、そこに教員以外の方に指導として入っていただきいた時に、今まで部活動として行っていた時間帯に教員以外の方が入っていただくことは難しいという場合もあります。また、人の問題の中には指導者以外にも運営する側の人材も必要であるという課題もあります。

2つ目は、お金の問題です。指導者に対しての報酬などもありますので、このお金をどう工面するか、これも非常に難しい問題となっております。

3つ目は場所です。これまで各学校区で部活動を行っていましたので、それぞれ生徒が歩いて、活動できる場所まで行くことができましたが、これを1つの場所に集めて活動するとなれば、移動手段が必要であり、どこを会場にしていくかということも、人数が変わればそれを選定する必要があります。以上です。

市長

ありがとうございました。ロードマップという点からいくと、令和10年度までに、休日の部活動の移行を目指すというのが、1つの目標なのかなと思います。萱沼委員の意見もありましたけれども、最終目標や過程までのロードマップを作るというのは重要なと思いますので、ぜひ考えて欲しいなと思います。

3つの課題がありましたが、部活動の地域移行について色々な意見を聞きます。色々

なスポーツで活躍している人が、表敬訪問に来ると必ず部活動の問題がかなり出ます。既存の部活動の種目以外に、例えば、空手といった新しい発想はありますでしょうか。

教育長

---

今までの種目にこだわりはなく、子どもたちがやってみたいということを中心に考えを進めていこうと思っています。

市長

柔軟にやっていくということで、ありがとうございます。なぜかというと、ガールスカウトやボイスカウト、自衛隊の方がぜひ教えたいという意見が多数あります。受け皿は探せばあるかなと思っております。

場所の問題は、これから高校再編が行われ、県と協議していますが御殿場高校の体育館をどうするのかとか、これからメッセという中学校の体育館2校以上の大きな屋内施設ができますので活用したり、法人の施設や公民館を活用したりするのが、良いのではないかと思います。御殿場ほど公共施設に恵まれた地域はないのかなと思います。

また、例えば、野球をやりたいけれど、クラブチームに行った方がいいのか、このまま学校に残ってやった方が良いのかということで、子どもたちが非常に迷っています。実際に野球の試合へ行った時に聞きましたので、検討をよろしくお願ひしたいと思います。

そして、挨拶という話が挙がりましたが、他の自治体では、中高一貫校へ統一するという話が出る中、御殿場市では1番小さい印野小学校を廃止するという意見は全くないというよりも、残すぞという意見が地域の人から聞こえています。地域と学校が連携している学校は消えないのかなと思っています。小さい学校は小さい学校なりに特色のある学校にしていけばいいのかなと思っています。色々な意見が出ていますので、地域の方の意見を聞いていただくことも大事かなと思います。

それでは、杉山委員、よろしくお願ひいたします。

杉山委員

---

生涯学習と地域活動の推進という点で、小学生の子どもを育てている保護者の立場としての意見も交えてお話ししさせていただきたいと思います。子どもたちの成長を支える仕組み作りにおいて、学校だけではなく、地域と学校が連携することの重要性というのは、基本理念の中でも触れられていました。

学びは教室の中だけではなく、地域の暮らしの中にあるという言葉をよく聞きます。地域活動に参加することで、子どもが地域の方々と関わる力を育み、安心して成長する環境が整っていくと感じています。人との繋がりが広がり、新たな学びのチャンスが増えているように感じます。学校が地域に開かれ、保護者だけでなく、地域の方々が教育

に関わってくださることで、世代を超えて学び合うことができ、地域の絆が深まっているものだと思います。

その関わりの中で子どもたちは自分も地域の一員だという責任感を持ち、大人たちも子どもたちの成長を支えているという誇りを感じられる、お互いに見守り合える存在になることが、地域の力になり、教育の力になっていると感じています。生涯学習と地域活動の推進は、教育の枠を広げ、地域の力を引き出す大切な取り組みだと思っています。以上です。

市長

---

ありがとうございました。大西委員、よろしくお願ひいたします。

大西委員

中学校の吹奏楽の活動をフォローするという意味合いで、8月20日に私を含めた5名で御殿場ジュニアビッグバンドを設立しました。中学生1年生から3年生まで募集予定であり、ジャズやポップス関係の吹奏楽経験者の方、活動されている方を対象とした活動をしていきたいと考えています。

芸術文化活動についてですが、この10年間を振り返ると、御殿場市民芸術祭の中で若い担い手が非常に少なく、高齢化を目見て感じています。私が出演していたほのぼのコンサートを例にとると、50歳から80歳代の方が多く、コロナの時期を境に、演奏者が減少し、文化不毛の地となりかねないと思っております。楽器を演奏したい、ダンスを踊りたいという子どもたちの芽を摘まないように、環境整備をしていかなければいけないと思います。

披露する場所はあるが、練習する場所がない。体験はしたいけれど、実際に楽器を吹く場所がない状況だと若い担い手が全く育たないという状況になります。文化芸術活動の発展をぜひお願いしたいと思います。以上です。

市長

---

文化芸術活動、生涯学習、地域活動の重要性について意見をいただきました。

例えば、お金の問題に対して、教育委員会の中でお金を用意することは無理ですから、市がどうやってお金を出すかというのは簡単な話で、方針がしっかりと良いことならば予算をつけます。そのため、教育委員会から、もう少し要望してもらってもいいのかなと思います。場所の問題も、これだけ立派な公民館や法人の施設があるため、市からお願いをして借りることもできます。そのためには、まず教育委員会がしっかりといた考えや体制を作り、それに市が賛同して、市が協力するということですね。遠慮しないで要望を言っていただきたいと思います。意外と教育費にかかるボリュームは少ないのかなと思っています。

それでは、勝又委員、よろしくお願ひいたします。

勝又委員

---

先程市長がおっしゃられましたが、御厨という言葉は、子どもの頃から大変慣れ親しんだ言葉で愛着がある地名です。私は御殿場小学校の出身であり、その校歌の中に御厨という言葉があります。その影響で、自然と子どもの頃から、ここは御厨と呼ばれている地域だということを、理屈抜きで理解していました。

御厨という言葉は、平安時代の伊勢神宮の荘園のことであり、地域的に限定することが難しいようで、裾野の一部、御殿場の一部、小山の一部をあわせて御厨地方や御厨領などと言われていたようです。御殿場というのは江戸時代になってから呼ばれ始め、平安と江戸を比べると全く年代が違うということで、御殿場よりも御厨という言葉の方が歴史が古いということになると思います。

さらに、明治時代になりますと、今も地名で言われていますが、馬車道というところがあります。馬車鉄道というものがありまして、最終的には御殿場から大月まで馬車鉄道が通っていました。明治36年に中央線が開通して以降、需要がだんだんなくなり、御殿場の上町だけの2キロの区間だけになったということで、これが廃線になる昭和3年まで馬車鉄道が残っていました。令和3年に、民間のプロジェクトチームがクラウドファンディングを募りまして、馬車鉄道の車両の復元を行ったというニュースがありました。実際にレールの上を走行できる車両を復元したことです。

収益を生むような施設ではないですが、御殿場市は文化都市であると堂々と胸を張って言えるような博物館や科学館、美術館などの文化的な施設を作り、後世に残していくべき、文化的な都市としてレベルを上げていただきたいと考えております。以上です。

市長

---

歴史・文化について意見をいただきました。現在、御殿伝承地歴史広場を令和10年夏のオープンを目標に計画を進めています。博物館という話がありましたが、来年度、新図書館、郷土資料館が完成します。御殿場の歴史などの資料が色々残っているが、外へ見せる機会がなかったということで、整備をしております。馬車鉄道など、様々な形で歴史・文化を伝えていければなと思っています。

御殿場は非常に可能性のあるまちだと思います。他の市町と比べて、核家族化と言つても、御殿場は高齢者と子どもが接する機会が多いのかなと思います。難しい問題があると思いますが、地域と一緒に学校を運営していくことになると思います。良い地域の人がたくさんおりますので、協力してより良い学校運営をしていただけたらと思います。

ではちょうど1時間半になりますので、本日は活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。それでは、この後の進行は課長にお願いしたいと思います。

## 5 閉会

---

教育総務課長

皆様ありがとうございました。本日のご協議は以上となります。

市長、教育長、そして教育委員の皆さん、本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

これをもちまして、令和7年度第1回総合教育会議を終了いたします。

午後3時00分閉会